

## 2020年度 学校総合評価

### 6 今年度の重点課題に対する総合評価

これまでの授業改善に係る実践研究の成果をベースに、より一層の教員の指導力向上を図るとともに、学習のみならず、学校生活全般にわたって主体的・協働的に活動できる生徒の育成に努め、生徒の多様な進路実現を着実に支援する指導の改善・充実に重点的に取り組んだ。また、本校が育てたい生徒像（小杉高等学校グランドデザイン）に基づいて、生徒の自己評価（小杉高等学校 Graduation Policy）も行った。

#### （1）学力向上

これまでの授業改善に係る実践研究の成果を活かし、今年度も主体的な学習活動の充実と学力向上を図るため、全校体制で授業研究に取り組んだ。その結果として、定期的に生徒が記入する「学習と進路の自己診断シート」の集計結果では、「計画や目標を決めて学習しようとしている」や「授業中に分からないところがあった場合、放置せずに教員や友人に聞き、解決しようとしている」生徒の割合が高く、「テストでできなかった問題は、あとからでも解き方を知りたい」は学年が増すごとに増加している。これは、生徒と教員の親和関係が成立しており、生徒は安心して授業中の活動において積極的に考えることに加え、真の学力をつけたいという意欲が育ってきたことがうかがえる。

今年度も昨年度に引き続き、授業公開WEEK（互見授業）やICT機器活用に係る研修会等を実施し、今年度の研究テーマ「主体的で対話的で深い学びを引き出す授業実践」に係る研究を進めた。全教科連携のもとICT機器を積極的に取り入れるとともに、グループ活動やプレゼンテーションの機会を積極的に取り入れ、生徒が自らの考えや意見を相手に分かりやすく伝えようと工夫する積極的な授業改善が引き続き行われている。

#### （2）基本的な生活習慣の定着

規則正しい生活を送り、身だしなみを整え、明るく挨拶を交わすことができるなど、基本的な生活習慣を身に付けることは社会生活の基本である。そのことを踏まえ全職員が指導場面において、生徒の時間厳守に対する意識を啓発したことにより、1年間皆勤生徒の割合が増加した。また、生徒会執行部と自律委員会が中心となり、ネット利用に係る「小杉高校ネットルール」を改善するとともに、それらについて生徒への啓発活動を行った。

#### （3）生徒の自主的な活動

新型コロナウイルス感染症の防止のため、生徒の活動が大きく規制され体育大会やボランティア活動などが中止となった。その中で学校祭は、生徒会が中心となり新型コロナウイルス感染症の予防対策を施すなど運営方法に工夫しながら、全校生徒が意欲的に取り組んだ。新型コロナウイルス感染症に関連して様々な制限が課せられた中で、教員と生徒が連携し工夫をしながら学校全体で取り組むことで、改めて活動の意義やあり方を考える機会になった。「学校生活に関する満足度調査」では、部活動や生徒会・委員会活動に充実感を感じている割合が昨年度より増加している。また、学校祭の満足度も9割を超え、「特別活動や学校行事が学校生活のプラスになった」と答えた割合も9割を超える結果となり、生徒が当たり前のことを当たり前にできない状況で、目標を見失わないように工夫した取り組みがなされていることがうかがえた。

### 7 次年度へ向けての課題と方策

全校体制で継続的に授業改善に取り組んだことにより、生徒が主体的・協働的に授業へ取り組む姿勢が高まったと思われる。しかし、学習面において、深く学びを追求しようとする意欲は不十分であり、今後も生徒の学習意欲を高めるようなICT機器を効果的に活用した主体的で対話的な授業や学習評価についての実践研究を進める必要がある。また、生徒の学習到達状況を明確に把握するとともに、これからの高大連携に適切に対応していくための調査・研究を進め、全教職員の共通理解を図りながら継続的に授業改善に取り組んでいくことが必要である。また、生徒の自己評価（小杉高等学校 Graduation Policy）を多角的に分析し、現状を正確に把握するとともに、課題を明確にしていく必要がある。

令和2年度 小杉高校アクションプラン			— 1 —
①重点項目	学習活動（学びに向かう生徒の育成）		
②重点課題	主体的・対話的で深い学びを引き出すための授業改善		
③現 状	・生徒の多様な能力等の伸長を目指す総合学科として、3系列6分野11型を設置し、進路実現に向けて主体的に学習に取り組む生徒の育成に努めている。 ・学習状況や興味・関心、意欲、進路希望等において多様な生徒が在籍している。 ・平成27年度までの3年間、文部科学省の「学力定着」に関する調査研究指定を受け、昨年度も全校体制で授業研究に取り組んできた。それらの成果を活かし今年度も継続して授業研究に取り組むこととしている。 ・昨年度から教員研修の一環として取り入れた授業実践の配信動画の継続的な視聴を実施している。		
④達成目標	【生徒】学習への主体的な取り組みと学習時間の質的向上が見られた生徒の割合	【教員】授業改善のための主体的な教員研修により成果が見られた教員の割合	
	70%以上	80%以上	
⑤方 策	・「学習と進路の自己診断シート」と「小杉高校GP」の評価を活用し、生徒の学習がより主体的・自覚的なものになるように工夫する。 ・「授業公開WEEK」の事前・事後研修を充実させることで、授業の改善や指導力の向上を図る。 ・「Find!アクティブラーナー」の授業実践動画の視聴を促進し、効率的な教員研修のあり方を進める。		
⑥達 成 度	「学習と進路の自己診断シート」では、すべての項目において肯定的な回答者の割合が70%以上であった。教員への授業改善に関するアンケート結果は、2.9(11月)から3.5(1月)に上昇し、「よくできた」と「だいたいできた」を合わせると97%となった。		
⑦具体的な取組状況	・新型コロナウイルスにより、4、5月は臨時休校だったため、「学習と進路の自己診断シート」「小杉高校GP」の実施回数は例年より1回減った。 ・生徒は「学習と進路の自己診断シート」を記入することで、学習活動を振り返り、次への学習行動の気づきとした。 ・第1回授業公開WEEK(11月)における教員アンケートでは、「評価規準の設定」に関する項目の点数が低かったため、第2回はそれを意識した授業改善に取り組んだ。 ・第2回授業公開WEEK(1月)期間中に、「校内公開授業研究会」を開催した。指定授業を行った教員は、単元計画、課題別ルーブリック、学習指導案等を準備し、主体的・対話的で深い学びを引き出す授業を作り上げた。		
⑧評 価	A	上記2つの達成目標をクリアしたので、評価をAとした。	
⑨学校関係者の意見	・研修により成果がみられた教員をどのように把握しているのか。⇒ 教員は事前に授業計画を立てていることから、それに基づいた自己評価と生徒評価、動画資料の活用回数、活用結果などのアンケートにより数値化して判断している。 ・生徒の調査結果について、同一学年で経年比較を行ってはどうか。新たな成果や課題が見つかるかもしれない。		
⑩次年度へ向けての課題	学習指導と「小杉高校GP」をリンクさせる。Find!アクティブラーナーの活用を工夫する。適切な場面でICTを用いた授業を取り入れ、小杉高校が育てたい生徒像の実現に向けて、今年度以上の授業改善に取り組む。		

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

令和2年度 小杉高校アクションプラン			— 2 —
①重点項目	学校生活（生徒指導）		
②重点課題	高校生としてふさわしい基本的生活習慣や態度をしっかりと身につける		
③現 状	<ul style="list-style-type: none"><li>・時間厳守の意識がやや希薄で、授業開始間近に登校する生徒が多く見られる。</li><li>・昨年は各学年での1年間の皆勤（遅刻、欠席、早退なし）の割合は約30.3%であった。（1年31.1%、2年32.0%、3年28.0%）</li><li>・アンケート調査からスマホでのネット利用やSNS等の使用時間が2～3時間の生徒が多い。なかには4～5時間以上利用している生徒もいる。</li><li>・スマホやSNSにのめり込んで、「睡眠不足・学習に悪影響があった」と感じる生徒もいる。</li></ul>		
④達成目標	各学年で1年間皆勤 （遅刻、欠席、早退なし）の生徒の割合	本校のスマホ使用ルールに取り組み、改善 できた生徒の割合	
	30%以上	60%以上	
⑤方 策	<ul style="list-style-type: none"><li>・全教職員が指導場面において、生徒の時間厳守や服装に対する意識を啓発し、学校全体としてルール、マナーを守っていこうとする気運を高める。</li><li>・生徒会執行部や自律委員会が全校生徒に向け「学校スマホ使用ルール」を互いに守るような活動を行い、家庭でのスマホ利用について改善していく。</li><li>・様々な機会を利用して皆勤の意義について説明し、1年ごとに学年皆勤賞をつくり表彰する。</li></ul>		
⑥達 成 度	<ul style="list-style-type: none"><li>・各学年での1年間皆勤率(遅刻・欠席・早退)なしの生徒割合 資料① 1年46.5% 2年40.0% 3年36.6% 全体41.2% (1/22現在)</li><li>・ネットルールに取り組み改善できた生徒の割合 資料② Q1 24% Q2 95% Q3 6% Q4 53%</li></ul>		
⑦具体的な 取組状況	<ul style="list-style-type: none"><li>・学期はじめの玄関指導や毎日の登校指導を行った。</li><li>・自律委員会が中心となり自律週間を設け生徒に挨拶や時間厳守を呼びかけた。</li><li>・一斉HRでネットルールについて取り組み状況をアンケートで集約し改善点を話し合い、全校集会で提案した。</li></ul>		
⑧評 価	A	<ul style="list-style-type: none"><li>・皆勤率については昨年よりも10%ポイントが上がった。</li><li>・スマホの使用ルールについては、質問の内容で達成度が判断できなかった。しかし問題点を共有することができた。</li></ul>	
⑨学校関係 者の意見	<ul style="list-style-type: none"><li>・スマホのルールについては、主体的な活動として、クラス毎に作らせてみてはどうか。生徒が異なるルールを守ることがあってもよいのではないかと。</li><li>・今後はタブレットの使用について、ウイルス感染への対処方法や使用規程を定め指導していく必要がある。</li></ul>		
⑩次年度へ 向けての 課 題	<ul style="list-style-type: none"><li>・皆勤生徒が増えるように、他の分掌と連携し基本的生活習慣の見直しや、自己管理の大切さを指導していきたい。</li><li>・不適切なネット利用から犯罪につながるケースが依然多いので、モラルの向上を図っていく必要がある。</li><li>・生徒が作成したネットルールをどのように浸透させて、取り組んでいくか課題である。</li></ul>		

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

令和2年度 小杉高校アクションプラン			— 3 —
①重点項目	学校生活（保健指導）		
②重点課題	・ 基本的生活習慣の確立と生活時間の自己管理能力向上		
③現 状	・ 健康セルフチェックの結果では、朝食や体調は概ね良好である。しかし、睡眠、スマホ使用については改善したいと答える生徒が多く、意識はしているが改善にはなかなか結びついていない。さらに課題やテスト勉強などの家庭学習を含め帰宅後の限られた時間を計画的に使えていない生徒も見られる。 ・ 卒業後の自立に向けて、生活習慣や毎日の生活リズムの大切さを理解し、自主的に生活時間をコントロールすることの重要性について認識している生徒は少ない。		
④達成目標	健康的な生活を目指し生活時間を改善できた生徒の割合		
	75%		
⑤方 策	・ 毎日の健康観察や定期的な健康セルフチェックを通して自分の生活習慣と時間の使い方を見直し、自ら考え改善できるように促す。 ・ 生徒保健委員会の主体的な活動を充実させ、生活時間改善の意識を高める。 ・ 学校保健委員会や健康講話、保健だよりを通して生活習慣の重要性や時間の使い方について考える機会を増やし、学校と家庭の連携に努める。		
⑥達 成 度	・ 健康セルフチェックを3回（7, 10, 12月）実施し、各自が改善したい生活時間を一つ選んで取り組み、次回に改善できたかを振り返った結果、改善できたと答えた生徒の割合は全校生徒の平均26%、少し改善できたと答えた生徒は48%、計74%(1年74% 2年75% 3年73%)となり、目標値には達しなかった。しかし、改善できたと答えた生徒の割合は、10月では22%だったが12月には29%と増加した。 ・ 改善したい生活時間を見ると、メディア(学習以外)29%、家庭学習27%、睡眠26%であった。改善できたと答えた生徒に絞ると、改善できた時間は家庭学習28%、睡眠26%が上位となり、逆に改善できなかったと答えた生徒が改善しなかった時間は、メディア(学習以外)33%睡眠31%であった。 ・ 今年度チェック項目に加えた毎朝の健康観察について、毎日行っていると答えた生徒の割合は 7月→10月→12月で増加しているが(51%→54%→56%)、しない日が多いと答えた生徒の割合も増加した。(7%→11%→13%) ・ 学習以外のメディア時間が2時間以上の生徒の割合は、62%(1年65% 2年59% 3年64%)となった。また睡眠時間は、5時間未満が8%(10% 6% 8%)、7時間以上が28%(20% 31% 33%)で、寝不足と感じている生徒は25%(29% 23% 22%)と1年が多かった。		
⑦具体的な取組状況	・ 健康セルフチェックでは、毎朝の健康観察、生活習慣や生活時間の記録、改善できたかの振り返りなど、自分の生活習慣や生活時間が見えやすいようにした。 ・ 生徒保健委員会では、生活リズムを意識して健康づくり～知力・体力・美力UP!～をテーマに、学習と部活動や生徒会を両立している3年生に、時間の使い方の工夫点や家庭でのルール、日頃心がけていることをインタビューし、その内容をまとめて配布した。 ・ 生徒保健委員による保健だよりでは、定期的に感染症予防の徹底と規則正しい生活習慣を呼びかけた。12月には自主的に手洗い週間を実施、手洗いが身についているか各自チェックし、冬に向けて感染予防策を再度確認した。 ・ 学校祭(9月)では保健委員会の活動や健康セルフチェック結果をまとめて展示した。		
⑧評 価	C	生活時間を改善できた生徒の割合は全体としては目標に達しなかった。しかし、個々の生徒で改善を試み改善できた生徒の割合は少しずつだが増加している。生徒保健委員が自主的にアイディアを出し行動する取り組みが活発であった。	
⑨学校関係者の意見	・ 1年生は学習以外でのメディア時間が多く睡眠時間が少ないが、学習と進路の自己診断についての結果はよい。他のアクションプランの結果も活用し、横断的な見方で分析してみるのも良いのではないかと。		
⑩次年度へ向けた課題	結果が現れるには地道な努力を要するが、今後も各自が生活習慣や生活時間の使い方を見直し少しずつでも改善に繋がるように、生徒の主体的な取り組みを継続していきたい。		

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

令和2年度 小杉高校アクションプラン				- 4 -
①重点項目	進路・キャリア支援			
②重点課題	・3年間を見通した「キャリアデザイン(産業社会と人間)」や「プロジェクトⅠ(総合的な探究の時間)・Ⅱ(総合的な学習の時間)」の計画的、継続的な実施による職業観や就業観及び進路意識の向上。 ・個別面談の継続的な実施による、早期の進路目標設定や学習意欲の喚起など、進路実現に向けてきめ細かな指導の充実。			
③現 状	・具体的な進路目標の決定が遅い生徒、将来やりたいことがわからない生徒、目標が決まっても自主的、意欲的な学習に取り組むことなく、十分な準備がないまま大学等の入試に臨む生徒が見られる。			
④達成目標	1年生 「キャリアデザイン」の授業内容やキャリア講話が、系列・進路選択や自分の生き方・考え方などの「参考」となったと考える生徒の割合	2年生 進路実現に向けてオープンキャンパスに参加する等の自発的な計画を立てる為、「手帳」を1日あたり1回以上開き活用した生徒の割合	3年生 面接指導や手帳を活用することによって、進路実現に満足している生徒の割合	
	70%以上	80%以上	80%以上	
⑤方 策	・1年次の「キャリアデザイン」では、グランドデザインと関連させ、各授業で身に付けさせたい力を教員が共有し、事前・事後の指導を充実させる。 ・2年次の「県外進路研修」の成果を高めるため、事前調査の段階から課題を明確にし、主体的に事前・事後の実践に参加させる。 ・「手帳」を書くことにより、時間の使い方や自分の行動を振り返る習慣を身に付け自ら学び、考え行動できる生徒を育成する。 ・グランドデザインにある身につけさせたい8つの力を育成し、GP自己評価によって生徒の実態を把握し、面談や指導に生かすことで、生徒の能力を伸ばし多様な進路実現を図る。			
⑥達 成 度	「はい、どちらかといえば はい」と回答した生徒の割合(2学期末) 1年 83.3%      2年 9.0%      3年 93.9% (1年 79.1%      2年 9.0%      3年 87.0%) ※令和元年度 ※昨年2年は「手帳を使って、自分の行動を振り返り、次の行動にいかすことができたか」			
⑦具体的な取組状況	・1年では、キャリアデザインの授業実践において、講演や講話を生かしてグランドデザインにある小杉高校で身に付けさせたい8つの力の伸長を意識して取り組ませることができた。 ・2年では、県外進路研修は中止となったが、課題研究を充実させると共に進路ガイダンスなどを活用して、自分の進路について考えさせる取り組みができた。オープンキャンパスの通常開催が無く、手帳の活用と結びつけることが困難であったが、日常生活において手帳を使う習慣づくりに務めた。 ・3年では、8月より個別指導体制を作り、進路実現に向け支援した。今年度は13名(12/11現在)の生徒が推薦入試で国公立大学に合格した。(昨年度は16名)			
⑧評 価	C	目標を達成したのは1年生と3年生であった。夏のオープンキャンパスがほとんど中止、あったとしてもオンライン実施となり、手帳の活用がうまくできなかった。		
⑨学校関係者の意見	・アンケートによって手帳の活用から進路実現の満足度を知ることは難しいのではないかと。 ・教員が生徒の手帳にコメントを書くなどのやりとりや、手帳の記入度合いから生徒の満足度を知ることができると思うが、それをするには、教員の負担が大きい。 ・手帳は、それを使わせることが目的でなく、生徒と先生間のコミュニケーションを高めるためのツールとして、それに取り組んでいる実態を根拠とすれば良い。			
⑩次年度へ向けての課題	「総合的な探究の時間」(プロジェクトⅠ)」の実施内容とグランドデザインとの関連を再検討および改善した上で、自己診断シートとGP自己評価との相関を調査し、充実した授業になるようにしたい。			

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

令和2年度 小杉高校アクションプラン			— 5 —
①重点項目	特別活動		
②重点課題	特別活動やボランティア活動など生徒の自主的な活動の充実		
③現 状	・学校行事やホームルーム活動、委員会活動において生徒会役員やクラス委員を中心に新たな企画の提案や取り組みを意欲的に行っており、主体的に活動する機会が増えている。 ・部活動やボランティア活動に熱心な生徒がいる一方で、特別活動が学校生活を充実させたという意識が低い生徒が1割以上いる。		
④達成目標	学校行事や各種特別活動に自主的に取り組み、自己達成感を持つ生徒の割合	学校生活を充実したものにするために、実際に行動したことがある生徒の割合	
	90%以上	90%以上	
⑤方 策	・生徒会執行部と各委員会・クラス・部活動などが連携して活動を企画し、組織としての生徒会活動をより活性化させ、生徒の参加意欲を高める。また、体育大会、学校祭等学校行事では「一人一役」とし、役割意識を高めるとともにリーダー育成に努める。 ・部活動に関する問題点を洗い出し、自主的な運営方法など改善策について検討する。 ・校外清掃活動や地域行事への参加など生徒が人々の役に立ち喜ばれる機会を設けるとともに、ボランティア活動に関する情報をできる限り発信し参加する機会を増やす。		
⑥達 成 度	○学校行事、部活動についてのアンケート結果 (資料①、②、③参照) ・学校祭 <満足度>97%① <役割意識>98%② ・部活動満足度 92%③(部所属生徒) ①③満足度平均=94.5% 90%を超える生徒が自己達成感を持っているという結果が出た ○学校生活の充実度についてのアンケート結果 (資料④参照) 「学校生活のプラスになった、より充実したものにできたと思うものは何か(複数可)」 部活動 47.8%(前年比 +2.2) 清掃の時間 11.2%(-3.0) クラス委員 10.7%(-2.7) ボランティア活動 14.5%(-5.6) 生徒会・委員会活動 17.2%(+0.4) あいさつ 11.1%(-0.3) 校内美化(ゴミ拾い等) 2.6%(-0.3) 学校祭 54.3% 特になし 32名(全校生徒の7.5% 前年比 -6.7) 特別活動や学校行事が学校生活のプラスになった、学校生活をより充実したものにできた、と答えた生徒の割合は92.5%(100-7.5)という結果が出た。		
⑦具体的な取組状況	・体育大会をはじめとする学校行事が軒並み中止となる中で、3年に1回の学校祭は生徒にとってクラスや部活動で取り組める、「学校でしかできない」数少ない行事であり、生徒会やクラスを中心に全校生徒が一人一役として係を担当し、それぞれが周りとの協力しながら自分の担当業務に率先して取り組むとともに、芸術鑑賞や吹奏楽部の発表を2部制にして密を避けるなど運営方法についても工夫した。 ・生徒会が中心となり、合同ホームルームを通して学校ネットルールについて全員で考える機会を設けるなど、制限のある中でも自分達ができることを考え、企画した。 ・部活動は大会・コンクール等の中止が相次ぐ中で、目標を見失わないよう各部で今できる活動を探求するなどの取り組みをした。		
⑧評 価	A	上記2つの達成目標をクリアしたので、評価をAとした。	
⑨学校関係者の意見	・今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で生徒の活動が制限されたこともあり、学校祭や部活動が学生生活のプラスになったと感じた生徒が多かったのだろうか。		
⑩次年度へ向けての課題	・まだまだ制限の続くコロナ禍の中で、生徒会を中心に生徒一人一人が今まで以上に「学校でしかできない、自分にできること」に自主的に取り組めるよう指導していきたい。 ・学校祭以外でも学校行事や生徒会活動、ボランティア活動、部活動を中心に、生徒が学校生活でしか学べないものを通して、学校生活に満足感や達成感を得ることができるきっかけ作りをもっと増やしていきたい。		

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)